



# 3 静岡東部ふたご・みつごの会 もっちーず 双子・三つ子を安心して産めるまちへ

計画達成度  
**20%**

団体・法人データ  
代表者:鈴木歩美  
構成人数:93名  
活動歴:5年  
主な活動地:沼津市内

## 事業目的

多胎児、つまり双子や三つ子の妊娠・出産が近年増えている。リスクの高い出産を乗り越え、過酷な育児生活を送ることとなる多胎出産。多胎妊娠は妊婦の負担が大きいものの専門の資料や相談窓口は少ない。出産後は、授乳やおむつ交換などの作業が倍以上になるほか、外出先で子どもが同時に泣き出し周囲から心無い言葉をかけられるなどの経験から子どもを連れて外出することができない母親も多にいる。これまで私たちは多胎妊婦や多胎家庭への支援の充実について行政への協力を要請してきたが、単胎妊娠に比べ数が少ないことなどが理由でいまだに支援は制度化されておらず、危機感を感じている。そのため本事業では、多胎妊婦やその家族に対してのヒアリングや相談会を実施することで不安の軽減を図り、育児本では知ることのできない多胎育児の実際について話をする機会を設けたい。出産後の家庭に対しては先輩ママがサポーターとして育児や家事のサポートに行くしくみをつくり、母親が一人きりで育児・家事を抱え込まないよう支援していく。また、継続的なつながりを作っておくことで仲間意識を感じてもらい、定期的な集まりの開催（オンラインも含む）により母親のリフレッシュの機会を設けること、防災講座等の勉強会を行うことの必要性を感じている。

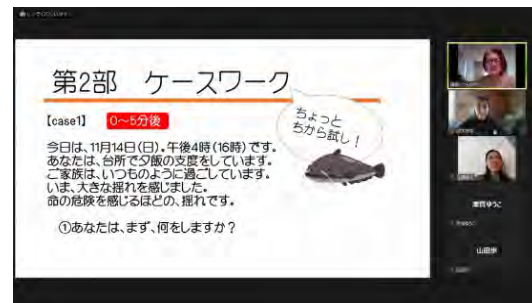
## 現状と目標

- コロナウイルスのまん延により、予定していた対面での活動は、もっちーず会のみとなってしまう、コンサートの開催ができなかったことを残念に思う。一か月に1組ほどのペースで多胎妊婦や多胎ママ・パパが入会している現状があるため、コロナ禍ではあるが多胎育児真ただ中の方はいる。そういった方のためにも、オンライン開催などの工夫をしながらつながりを感じられるような会である必要がある。
- プレパママ相談会を2度実施したが、他地区の保健センターや子育てサークル内で呼びかけたにもかかわらず2名しか参加者が居なかったため、ニーズがないわけではないが、病院等での呼びかけ等、多胎妊婦にこの活動の存在を知ってもらう工夫が必要であったように感じる。
- 1年間、ファンド事業として行ってきたが、やはり収入等を考える前に、「ママ達の心の救い」となっていることが一番大切であることを感じた。今後はイベント等は無理に開催せず、「困ったら誰かが助けてくれる」「もっちーずのママ達がいるから安心」と思ってもらえるような会であるための努力をしたいと思う。



## 活動と成果

- **プレパママ講座**: 2回実施 (うち1回はメッセージでの相談会) 2名参加  
→ パパママ講座に参加した妊婦さんより安心して出産できたという反応がいただけた。
- **サポーター派遣**: 1回実施 サポート事業会員数: 15名 うちサポーター4名、利用者11名  
→ 利用者の要請がなかったため通院や予防接種への付き添いは実施できなかったが、サポーター事業に会員登録してくれたのはサポートが必要なママ11名。サポートを実際に利用しなくても、万が一の際に頼める先があることで安心するというママの声が多かった。実際にサポーターを利用したのは1名だけだったが、産後1か月で疲弊していたので話し相手になってくれただけで嬉しいと言っていた。双子の授乳や寝かしつけの手伝いを行った。
- **防災講座**: 1回実施 7名参加  
→ 防災の知識をつけたことでより子育て世代のネットワークの構築が必要であることを発信し、つながりを続けていくことの大切さをメンバーの皆で再確認できた。
- **もっちーず会**: 1回実施 9家族参加



## 振返り課題

今回まちづくりファンド事業で資金をいただいて活動をしたが、もっちーずのメンバーはやはり多胎児の母であることがまず大前提としてあるため、活動に積極的に参加できるメンバーがとても少ないこと、また育児に手いっぱい防災などの講座に参加する余裕もないママが多いという現実気がついた。そのため、今後は事業をサポート事業にしぼり、資金を必要とする大きな活動(講座・イベント等)は廃止し、よりママ達の心のつながりとして団体が機能するようにしていきたい。

右の図のような、行政からの積極的なサポートを行ってもらいながら、もっちーずの中では常にパパやママの心のよりどころとなるようなつながりづくりをしていき、地域の方々の多胎育児に対する理解と温かい応援・まなざしのあるような地域になることを願っている。

## 関連図

